

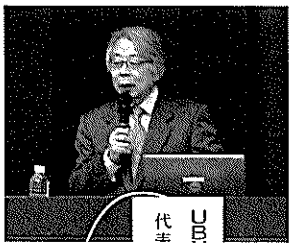
沖縄県健康産業協議会会報

「新春講演会」を開催

沖縄県健康産業協議会(大道 敦会長)は、加盟企業(一社)は、平成二六年新春講演会を一月二二日(土)に開催した。新春講演会では、健康産業新聞を発行するUBMメディア株式会社の代表取締役の牧野順一氏を迎えて「動き出した機能性表示と健康食品市場の展望」と題して講演を頂いた。

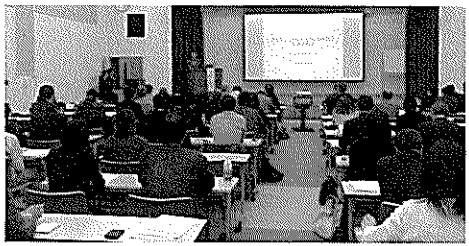
「今年の話は重要ですよ」と印象的な言葉で始まった講演ではまず、「機能性表示導入への道」として安倍総理が二〇一三年六月に行った「成長戦略第三弾スピード」で機能表示促進の意向が発表されたこと、続いて閣議決定があり、規制緩和が本当に行われるという経緯が示された。

今までは特定保健用食品と栄養機能表示の対象範囲であったが、新制度では「健康食品」もエビデンスがあれば表示対象となる。また、サプリメントを摂る人の六割が「機能性表示をして欲しい」という声がある。その後の懇親会でもこのチャンスを活かそうと活発な意見交換が行われた。



代表 大道 敦

「健康食品の出荷額は下降傾向にあるものの、平成二二年及び二三年はその前の年を上回っているため、今後の推移が注目されること、県産原材料を利用する事業者の割合とその制約要因について、また県内での競争が多くなること等が報告された。



「健康食品の出荷額は下降傾向にあるものの、平成二二年及び二三年はその前の年を上回っているため、今後の推移が注目されること、県産原材料を利用する事業者の割合とその制約要因について、また県内での競争が多くなること等が報告された。

「健康食品の出荷額は下降傾向にあるものの、平成二二年及び二三年はその前の年を上回っているため、今後の推移が注目されること、県産原材料を利用する事業者の割合とその制約要因について、また県内での競争が多くなること等が報告された。

「健康食品の出荷額は下降傾向にあるものの、平成二二年及び二三年はその前の年を上回っているため、今後の推移が注目されること、県産原材料を利用する事業者の割合とその制約要因について、また県内での競争が多くなること等が報告された。

「健康食品の出荷額は下降傾向にあるものの、平成二二年及び二三年はその前の年を上回っているため、今後の推移が注目されること、県産原材料を利用する事業者の割合とその制約要因について、また県内での競争が多くなること等が報告された。

「健康食品の出荷額は下降傾向にあるものの、平成二二年及び二三年はその前の年を上回っているため、今後の推移が注目されること、県産原材料を利用する事業者の割合とその制約要因について、また県内での競争が多くなること等が報告された。

「健康食品の出荷額は下降傾向にあるものの、平成二二年及び二三年はその前の年を上回っているため、今後の推移が注目されること、県産原材料を利用する事業者の割合とその制約要因について、また県内での競争が多くなること等が報告された。

「健康食品の出荷額は下降傾向にあるものの、平成二二年及び二三年はその前の年を上回っているため、今後の推移が注目されること、県産原材料を利用する事業者の割合とその制約要因について、また県内での競争が多くなること等が報告された。

「健康食品の出荷額は下降傾向にあるものの、平成二二年及び二三年はその前の年を上回っているため、今後の推移が注目されること、県産原材料を利用する事業者の割合とその制約要因について、また県内での競争が多くなること等が報告された。

「健康食品の出荷額は下降傾向にあるものの、平成二二年及び二三年はその前の年を上回っているため、今後の推移が注目されること、県産原材料を利用する事業者の割合とその制約要因について、また県内での競争が多くなること等が報告された。

「健康食品の出荷額は下降傾向にあるものの、平成二二年及び二三年はその前の年を上回っているため、今後の推移が注目されること、県産原材料を利用する事業者の割合とその制約要因について、また県内での競争が多くなること等が報告された。

「健康食品の出荷額は下降傾向にあるものの、平成二二年及び二三年はその前の年を上回っているため、今後の推移が注目されること、県産原材料を利用する事業者の割合とその制約要因について、また県内での競争が多くなること等が報告された。

「健康食品の出荷額は下降傾向にあるものの、平成二二年及び二三年はその前の年を上回っているため、今後の推移が注目されること、県産原材料を利用する事業者の割合とその制約要因について、また県内での競争が多くなること等が報告された。

賞味期限ってどうやって決めたらいいの？

賞味期限は、『客観的項目』(食品検査の結果)で決めなければなりません。

一般的な微生物検査なら、25,000円ぐらいで検査可能です。

お得な協議会 会員割引!
ご利用は下記まで

連絡先:
 沖縄県健康産業協議会事務局(谷井)
TEL 859-6238
FAX 859-6233

県産品拡大展開総合支援事業のご案内

(公財)沖縄県産業振興公社では、沖縄県から委託を受け「県産品拡大展開総合支援事業」を実施しています。当該事業では、県内企業に対して県産品の県外(国内に限る。)販路開拓・拡大の促進を図るため、各種補助メニューをご用意しておりますので、ご活用ください。

【補助メニュー】
 1. テスト販売・販売促進支援
 2. 県外流通事業者招聘支援
 3. 見本市・展示商談会等出展支援
 4. 沖縄情報発信支援

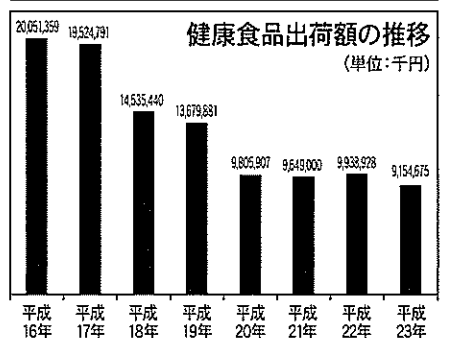
【対象者】
 県産品(県内で生産又は主たる加工が行われたもの)を生産、販売する次の者
 (1) 県内生産者: 県内生産者、県内製造メーカーなど
 (2) 県内流通事業者: 県内卸売業者など
 (3) 県外流通事業者: 県外卸売、小売業者など(物産展・フェア等を企画、実施する者を含む)

【受付期間】
 2014年4月15日～2015年1月31日
 ※期間内であっても予算がなくなり次第、受付を終了いたします。その他、ご質問等ございましたら、お問い合わせください。

＜お問い合わせ先＞
 ■補助金申請手続等に関するお問い合わせ
 ※対応時間: 平日9:00～17:00
 (公財)沖縄県産業振興公社 海外・ビジネス支援課 担当者: 兼島
 TEL: 098-859-6238 E-mail: sougoushien@okinawa-ric.or.jp

● 沖縄の素材紹介 春ウコン ●
春ウコン (和名: キョウオウ)

春ウコン(学名: *Curcuma aromatica* Salisb. 英名: *Wild turmeric*)は、ショウガ科ウコン属の多年草。熱帯の高地や亜熱帯気候の冷涼地で自生していたものが400～500年程前にウコン(秋ウコン)と共に琉球王国へ渡ったと考えられています。春にピンク色の花(正確には花ではなく、花穂と呼びます)を咲かせ、葉の裏にピロードのような繊毛があり、利用される根茎部分の切り口は鮮やかな黄色をしていて、強い苦味と辛味があることが特徴です。現在の中国では春ウコンを鬱金(ウコン)、秋ウコンを姜黄(キョウオウ)といいますが、日本では春ウコンを姜黄(キョウオウ)といい、秋ウコンが鬱金(ウコン)と逆になっています。秋ウコンと比較するとクルクミンの含有量は少ないのですが精油成分を豊富に含んでおり消化器系や循環器系に効果的であるとして研究が進められています。沖縄県春ウコン事業協同組合では沖縄在来種の春ウコンを「沖縄春ウコン」として全国に発信し、ブランド化を目指して普及活動に努めています。



交換を行った。また、次回は化粧品表示セミナー開催を行うてほしいとの要望があった。

「コスメ部会セミナー」開催

平成26年2月26日に(公財)沖縄県産業振興公社の情報提供セミナーへ共催し、県内の化粧品関連企業向け講演会を開催した。当日は50名の参加があった。

第1部では、UBMメディア(株)月刊ダイエツト&ビューティ編集長 江潮敦氏が「美・健康長寿産業と沖縄の可能性」2020年美容市場はどうなるか」と題して講演を行った。第3部では、当協議会コスメ部会を開催し会員企業で情報交換を行った。また、次回は化粧品表示セミナー開催を行うてほしいとの要望があった。

研究紹介

工業技術センターでは現在、沖縄県産振興重点研究推進事業において「健康食品製造プロセス高度化支援研究」というテーマで、平成24年から26年度の3カ年間、県内の主要健康食品の一つであるウコン製品の品質向上に向け、①春ウコンを題材とした原料の規格基準に関する研究と、②秋ウコンを題材とした製品の規格基準に関する研究に取り組んでいいます。その内容と成果の一部を紹介いたします。

①原料の規格基準の検討

健康食品として用いる原料は、その素材の有用性(特微成分)を見出すことが必要です。秋ウコンはクルクミノイドが有名ですが、春ウコンでは、ミネラルが豊富と、か、「精油が豊富」といった表現がありますが、よく分かっています。そこで、秋ウコンや紫ウコンとの比較もしながら、春ウコンの特微成分の探索を行っています。これまでのところ、春ウコン乾燥物中のミネラル成分は栄養学的には少量である事、精油量は秋ウコンより少ない事等が分かり、どちらも特徴となるものではないと思われ、一方、精油の香りや色に官能的な違いが認められ、春ウコンに特有な油成分を比較分析しました。結果、春ウコンに特有な成分が見つかりました。現在、その成分を規格基準として取り入れるための簡易分析法等について検討しています。

②製品の規格基準の検討

秋ウコンは春ウコンや紫ウコンと比較して、圧縮成形性が悪く、添加物を少量にした錠剤への加工難易度の高い素材であることが知られています。そこで、秋ウコンを用いて、錠剤にとって重要な技術要素である、錠剤硬度、崩壊時間及び溶出時間を規格とした場合の制御技術の開発に取り組んでいます。その結果、これらの制御は、流動層造粒を行う事、その際の運転条件や結合剤の調節により可能となる事が分かっています。本技術を用いることにより、たとえ原料ロット間での加工物性が異なっても、定めた規格内に収めることができるものと考えられます。